



○触覚

五感というものがあります。見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触れる、ですね。今回はその中の「触れる」です。私たちは毎日何かを触っています。朝起きたらたいてい顔を洗いますが、自分の肌に触れています。服を着替えるときは布を触っています。食事を作るときは食材を触っています。またそれを食べるときは唇や歯で触っています。出かけるときはドアを触り、車の運転をするときはハンドルを触っています。何かを触るときは肌触りのよい方が気持ちいいですね。ソファーであればビニールレザーよりは本革の方がいいですね。昔、私は自転車で長距離旅行をしていましたが、本革のサドルは全くお尻が痛くなりませんでした。

なぜ触ることの話題になったかという「造形」の授業でフロッタージュや粘土あそびを行ったからです。小さな子どもたちは何でも手に取り、触って確かめようとします。ときには口に入れて確かめようともします。砂であればざらざら感、布であればふんわり感、粘土であればねちょねちょ感でしょうか。葉脈のでこぼこ感や複雑な模様も、触ったりじっと見ていると不思議な物体のように見えてきます。学生たちには子どもたちの気持ちになって不思議さを感じてほしいと思いました。また、写し取った模様を使ってデザインも工夫してみました。

てぬぐい「森林浴」



コインと葉っぱの
アロハシャツ



子どもたちは粘土や砂あそびが大好きです。毎日やっても飽きることがありません。2歳くらいであれば握る・ちぎる・つぶす・切るなどさまざまな方法で触って感触を味わいます。まだ作品を作るというような意識はなさそうです。少し成長していくと偶然に出来上がった形からさまざまなものを見立てていきます。もう少し成長すると目的をもって形作ろうとし始めます。砂場でつくった小さな山でも子どもの心の中ではそびえたつ富士山に見えていることでしょうか。学生たちが作った作品は前号で紹介しましたので、省略します。

○自校自賛 (校内点描)

ステンドグラス (2年生作) CD 校に飾っています



玄関に居た蛾
ナウシカの乗り物?



3年前に株分けした植物
後ろは造形作品展

